

## 主任介護支援専門員研修における困難事例の経時的変化

ー内容分析による支援困難テーマの考察ー

○ 名寄市立大学 小銭 寿子 (003721)

[キーワード] 主任介護支援専門員研修、困難事例、内容分析

## 1. 研究目的

介護保険制度の運用の要である介護支援専門員のケアマネジメントの体系的見直しや地域における包括的なケアシステムの実現に資する研修体系として、さらにスーパービジョンを行う専門性を醸成する機会として A 県では 2007 (平成 19) 年度から「主任介護支援専門員研修」が実施されている。先行研究では東京都社会福祉協議会による主任介護支援専門員のケアマネジャー支援に焦点を当てた調査<sup>1</sup>や介護支援専門員と主任介護支援専門員の支援関係に関する調査<sup>2</sup>や主任介護支援専門員研修の経緯<sup>3</sup>から課題が指摘されている。本研究では主任介護支援専門員という役割の成立過程を背景に多様な経験をもつ介護支援専門員が受講する研修後期日程の「事例研究及び事例指導方法」に提出された困難事例の内容を明らかにすることで、スーパービジョンを修得する機会の必要性や主任介護支援専門員の前職となる専門職養成教育課程や所属機関・事業所の課題を考察することである。

## 2. 研究の視点および方法

主任介護支援専門員研修の後期日程設定の講義・演習「事例研究・事例指導方法」の講師として担当した 8 年間の内、提出事例タイトルを網羅した平成 21～25 年度の 5 年間に B 市で開催され提出された困難事例総数 634 件について受講者が設定したタイトル表記から文脈(一文一意味)で区切り、分析の記録単位とし、内容の類似性に従って分類し、サブカテゴリーからカテゴリーを抽出し、内容を反映させたキーワードから分析する内容分析<sup>4</sup>の方法をとった。

## 3. 倫理的配慮

提出事例については事例の地域性や個別性、介護支援専門員の所属機関、受講年度、受講者が特定されないように B 市で開催された研修を対象にし、倫理的に配慮し統計的に分析した。

## 4. 研究結果

A 県主任介護支援専門員研修の困難事例として検討した事例総数 634 (各回平均 126.8)、分析対象の記録単位の総数は 1756 (各回平均 351.6、1 件当 2.77) であった。内容の類似性に従って分類したサブカテゴリーは 31 で 9 のカテゴリーに分類できた。カテゴリーの内容は【対象者特性】【介護者特性】【困難状況】【関係性】【介護支援専門員】【介護保険サービス】【医療等連携】【地域資源】【終了ケース】である。各カテゴリーのサブカテゴリーは対象者特性 8(認知症・独居・身体疾患・精神疾患・特定疾患・癌・経済的困窮・住居)、介護者特性 5 (身体疾患・精神疾患・介護力・介護負担・経済的困窮)、困難状況 3 (ターミナルケア・虐待・拒否)、関係性 4 (本人・家族介護者・関係機関・所属機関)、介護支援専門 3 (専門性・権利擁護・役割)、介護保険サービス 3 (介護支援事業所・入居施設・利用)、医療等連携 2 (医療機関・専門職)、地域資源 2 (地域・近隣住民)、終了ケース 1 (過去) であった。

5 年間の困難事例の中心テーマである記録単位は認知症 202(31.9%)、独居 129(11.5%)、精神

疾患 68(10.7%)、ターミナルケア 27(4.3%)、虐待 22 (3.5%) であり、平成 25 年では虐待や経済的困窮を取り上げた事例はなかった。

5 年間の困難テーマ：記録単位上位割合

年	事例数	認知症	独居	精神疾患	ターミナルケア	虐待
H21	113	38.9% (45)	25.7% (29)	3.5% (4)	3.5% (4)	4.4% (5)
H22	125	36% (45)	24.8% (31)	19.2% (24)	2.4% (3)	4% (5)
H23	127	22.1% (28)	11% (14)	8.6% (11)	4.7% (6)	3.2% (4)
H24	143	28.7% (41)	22.4% (32)	8.44% (12)	7% (10)	5.5% (8)
H25	126	34.9% (44)	18.3% (23)	13.5% (17)	5.6% (7)	0
計	634	202 (31.9)	129 (20.3)	68 (10.7%)	30 (4.7%)	22 (3.5%)

## 5. 考察

事例研究は多様なケア関係者の養成教育の機会において活用でき、専門性を高め実践現場における役割の意義や支援方法の応用を確認する際にも有効であるが、支援困難感の表出でもある事例タイトルの年次推移から、特定疾患やターミナルケアに関する事例は減り、虐待事例の関与についても変化が見られる。研修終了後には主任介護支援専門員として、介護支援専門員に適切な指導・助言を行い、包括的・継続的なケア体制の構築を推進し、関係事業所や保健医療福祉専門職種間の調整、さらに事業所における人事・経営管理、利用者の視点に立って各種サービスの質・量を確保し、改善できるレベルとなるような保証を担保するのが研修担当の使命でもある。

本研究から認知症や精神疾患に関する医療知識や支援方法、独居生活の支援ネットワーク構築や関係調整、介護保険サービス拒否やターミナルケア、虐待対応等より具体的な事例検討を実施できる主任介護支援専門員研修のあり方や受講後の困難事例に対する支援体制について検討を加えることが必要と示唆された。多様な養成課程を経た保健医療福祉専門職が就職後に実務経験を経て介護支援専門員資格を取得する意義は大きいと考える。昨今では保健医療福祉専門職養成課程における連携教育により事例検討の場が連携実践を高める意義は浸透してきており、その重要性を喚起することや実践経験年数に裏打ちされた支援困難感へのスーパービジョン機能が活用される主任介護支援専門員の研修機会の機会と内容の詳細な検討が必要である。

謝辞：本研究につきましては一般社団法人北海道総合調査研究会のご協力に深く感謝致します。

尚、本研究は平成 26 年度名寄市立大学特別枠支援による研究課題「主任介護支援専門員研修における事例検討とスーパービジョンに関する研究」の成果報告の一部である。

<sup>1</sup> 社会福祉法人東京都社会福祉協議会センター部会地域包括支援センターのあり方検討委員会,地域包括支援センターの包括的・継続的ケアマネジメントに関する調査 主任介護支援専門員のケアマネジャー支援に焦点を当てて,東京都社会福祉協議会,2008.3

<sup>2</sup> 吉田輝美,介護支援専門員と主任介護支援専門員の支援関係の実態と課題—両者におけるスーパービジョンに着目したアンケート調査から—,厚生指 第 60 巻第 2 号,2013.2

<sup>3</sup> 遠藤 柁也,すべてのケアマネに主任研修を受けてほしい研修内容の見直しも,月刊ケアマネジメント 2009;20(7):16-17

<sup>4</sup> 上野栄一,内容分析とは何か—内容分析の歴史と方法について—,福井大学医学部研究雑誌第 9 巻第 1 号・第 2 号合併号.1-18.2008